



旧夕張太小学校跡利用決定

日生バイオの挑戦

南幌町産の大麦若葉を原材料とした
大麦若葉エキス末『青汁』製造事業の展開



地域説明会の様子
(夕張太集落センター)



日生バイオ株式会社
本社・北海道研究所 (恵庭市)



青汁の原料となる大麦若葉

旧夕張太小学校の跡利用

平成24年3月、113年の歴史に幕を下ろした夕張太小学校の跡利用を進めるため、地域づくりにつながることなどを条件として民間事業者への公募を3回にわたり実施しました。しかし、応募に至る事業者がなかったため「企業誘致」による跡利用に方針転換をしたところ、日生バイオ株式会社からお話をいただき、平成26年11月より、譲渡に向けた協議を始め、9月16日に売買契約を締結しました。

日生バイオの取組み

日生バイオは「科学を究め、明日の健康と環境を創造する」を理念に、独創的な研究開発をベースとして発展を続ける研究開発型の企業です。北海道伊達市生まれの松永代表取締役の北海道への強い思いから、平成16年に恵庭市に北海道研究所を新設し本社も東京から移転しました。現在は、北海道のサケ白子中のDNAや核タンパク質を健康食品や化

粧品として活用する製品を中心に北海道の天然素材の有効活用を目的とした事業を行っています。

南幌町での事業展開

現在製品化している、米国産の大麦若葉による青汁に変わり、今後は「より安心・安全な北海道産の原料」「北海道資源の有効活用」のため、南幌町内で生産された大麦若葉を原材料とした青汁の製造を旧夕張太小学校体育館を改修して行う計画です。冷涼な北海道での大麦若葉の栽培と、それを原材料とする「大麦若葉エキス末」の商業生産は過去に例を見ない試みであり、注目が高まっています。

地域との関わり

今後は、旧夕張太小学校の校舎の一部やグラウンドを地域住民へ開放したり、子どもたちのための「科学実験教室」なども開催する予定です。地域に根付いた企業を目指して、日生バイオの新たな挑戦が始まります。

日生バイオ株式会社の実績等

- ・第20回中小企業優秀新技術新製品賞 優秀賞受賞
- ・「世界を制した中小企業」掲載 黒崎 誠 著 (講談社発行)
- ・フード&メディカルイノベーション (FMI) 参画企業
- ・北海道食品産業協議会 会長 (代表取締役 松永政司)



日生バイオ株式会社
代表取締役 松永政司

旧夕張太小学校の改修工事を行い、来年3月には工事が完成する予定です。青汁の原材料である大麦若葉を南幌町内の農家や農業法人に栽培委託を計画しています。工場や事務所等に使用しない校舎の一部やグラウンドは地域住民の方の要望に沿ってご使用いただけるように考えています。毎年グラウンドで開催されている盆踊り大会も、ぜひ来年も使って欲しいです。その際は日生バイオの社員も、仲間に加えてください。これからも宜しくお願いいたします。